



# 若木

2026年4月30日 No. 2

町田市立町田第五小学校  
校長 米山 哲也

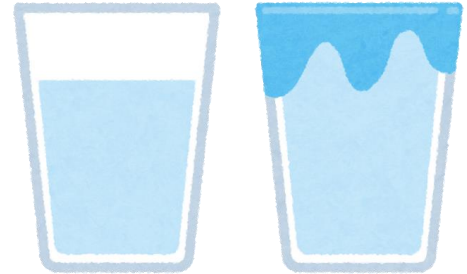
## ～心のコップはどっち向き？～

校長 米山 哲也

イギリスには「馬を水辺に連れて行くことはできても、水を飲ませることはできない (You can take a horse to the water, but you can't make him drink.)」ということわざがあります。

「馬主が水を飲みたいだろうと判断して馬を水辺に連れて行っても、馬は水を飲むとは限らない。馬自身の喉が渴いていなければ、水を飲んだりしない。」とう意味です。人に置き換えると「人は他人に対して機会を与えることはできるが、それを実行するかどうかは本人のやる気次第である」ということになります。

教育の場でも同じような意味をもつ「人の心にはコップがある」という言葉をよく耳にすることがあります。「心のコップが上を向いている人」は周りの人の話や学んだ内容、自分に起きたよいことも悪いことも、水を注ぐように心のコップにどんどん注いでいきます。そして、コップに注がれたことをどんどん吸収していくので、態度や考え方が素直で何事にも前向きに取り組めます。「心のコップが下を向いている



人」は周りからのアドバイスがなかなか耳に入らず、当然、学びも深まりません。下を向いたコップに水を注いでもこぼれてしまうので、よいことも悪いことも吸収することができません。考え方が後ろ向きになってしまい、やる気を持続したりすることが難しくなってしまいます。

私たち大人は、子どもたちの「心のコップを上に向けること」を意識して関わるのが大切です。そのためには、まず、子どもたちが挑戦しやすい目標をつくとよいでしょう。「取り組みやすい課題を用意する」「短編集を読んでみる」「短時間でも継続して学習に取り組む」など、段階的な目標を設定すると子どもは挑戦しやすくなります。次に、子どもがやる気を出したら、ほめてあげることも大切です。大人から見ると小さな行動だとしても、子どもにとっては大きな一歩です。少しでも変化が見られたら「よく頑張った!」とほめてあげるとよいです。子どもは自己肯定感や自尊感情を高め、次の行動にもつながることでしょう。時に、大人の思いが「きっとできる」「こうなって欲しい」と強くなってしまうと、できないことばかりが目につくようになってしまいがちです。「できないことがあってもよい」と気持ちに余裕をもって子どもたちに接することも大切です。

心のコップが上向きになり、どんどん水が注がれ溜まっていくと、子どもたちは大きく変化していくことでしょう。「できた」「わかった」「もっとやりたい」という気持ちが子どもたちの心のコップからあふれ出るようになることが理想的です。町田第五小学校では、様々な学習や生活場面で工夫しながら、子どもたちの心のコップを上向きにして学びの水を注いでいきます。各ご家庭でも「今、子どもの心のコップはどっち向きかな」と意識してお子様に関わってくださることを願います。